

## 年末・年始におもう、「布施（ふせ）」のころ

BC州で記録的な豪雨により、各地において洪水や土砂災害が起きています。被害にあわれた方達の安全と各地の速やかな復興を願っています。2021年から2022年を迎えるこの時期、BC災害の災害や、各地にてチャリティー活動が活発になる時期です。仏教徒として大切な「布施の行」の実践をしやすい時期ですね。法話の中で、六波羅蜜（ろくはらみつ）という大乘の菩薩（ぼさつ）が修める6種の行業で「布施」の話しを聞かれた、読まれた方も多いかと思えます。

仏教には他に「四摂事（しししょうじ）」ということばがあります。あえて、難しく申しますと、菩薩（仏さまになろうとしてその目標に向かって修行する人）が人々を救おう、として行う四つの事、ということです。もう少し簡単にいえば、その菩薩行にならって、私たちが生きていく上での生活目標です。この「四摂事（しししょうじ）」を順番に紹介します。

1. 「布施摂（ふせしょう）」 相手に財や法を施すこと
2. 「愛語摂（あいごしょう）」 相手にやさしいことばで話すこと
3. 「利行摂（りぎょうしょう）」 相手の利益になるようにすること
4. 「同事摂（どうじしょう）」 相手の中に入り、相手の苦楽をともにすること

最後の「同事」というのはあまり聞きなれないかもしれませんが、とても大事なことで現代社会にあっていちばん欠けていることではないか、と感じています。「同事」の反対は「対治（たいじ）」です。あるお医者さんがこのことばに感銘を受けて、ご自身の医学での立場でこの「同事」を説明していました。その先生によると、例えば、末期のガンの方がいるとすれば、「がんばって、あきらめないで」と施療するのが「対治」、そうではなく、「よくがんばったね、もういいよ」と相手の苦しみのなかに自分を入れていく、この方にとっては自分の苦しみをわかってくれる人がいる、というのが何よりも苦しみの和らぎになります、そのことが「同事」です。相手の中に入り、相手の苦楽をともにすること。「同事」ということ、つまり、相手の中に入り、相手の苦楽をともにする、ということ、とても尊いことです。なかなか、簡単には行えませんね。

どうか皆様も年末のこの時期、出来る範囲でローカルのチャリティー（Foodbank 等）へ直接ご寄付を協力いただきますよう、お願い申し上げます。どうかみなさま、よいお年をお迎えください。

合掌

カナダ開教区 総長

青木 龍也